

開かれた学校を目指した Web コミュニティ

高橋いづみ

お茶の水女子大学院

〒112-0012 東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-5381

e-mail: g0470507 @edu.cc.ocha.ac.jp

概要

近年、子どもの多様化や社会の変化にともない、教育問題が多発している。これらの原因を理解し解決の指針を得るためにも、学級集団や学校をとりまく地域・家庭などに関する分析と検討が求められている。このように、学校を取り巻く環境がより複雑になる一方で、学校に求められる期待と役割は非常に多く、「教師や学校の抱え込み」も問題になっている。

そこで本研究では、中学校における教育活動の現状や問題点を保護者や地域の人々に公開し、「教師や学校の抱え込み」を克服し、保護者や地域の人々と共に「開かれた学校」へと改善していくことを志向したシステムを提案する。このシステムでは、ホームページで学校の情報を発信する一方で、保護者が学級担任のアカウンタビリティに対する評価を行うなど、双方向性を重視している。さらに、先行研究の結果を共通のインタフェースを持つ形に構成し直し本システムに組み込むことで、教師の作業軽減のサポートも目指している。現在、システムの一部を実装しており、今回はその途中経過を報告する。

1. はじめに

近年、子どもの多様化や社会の変化にともない、これまでの学校や教師の在り方の見直しが提言されている。それとともに、児童生徒の多様化を生かした柔軟な学級経営、教職員の協働による創造的で特色ある学校づくりなど、児童生徒の特性、地域の実態、保護者の要求等を積極的に組み込みながら、自主的・自律的に教育活動を展開していく学校づくりへの期待が高まっている。また、依然として多発している教育問題の原因を理解し解決の指針を得るためにも、学級集団や教職員組織および学校をとりまく地域・家庭、さらには教育制度などに関する分析と検討が強く求められている。^[1]

このように学校を取り巻く環境がより複雑になる一方で、学校に求められる役割は非常に多く、「教師や学校の抱え込み」も問題になっている。そこで本稿ではこれらを背景に、

「教師や学校の抱え込み」を克服し、保護者や地域の人々にも学校教育へ参加してもらい、「支え合う学校」、「学び合う学校」、「開かれた学校」へと改善していくことを志向としたシステムを提案する。

2. 「開かれた学校」を目指して

2.1 なぜ学校を開くのか

近年、多発している教育問題を学校・教師だけで解決するのは難しい。学校と家庭・地域社会が一体となって考え、その対策・対応を具体化するときである。学校の教育内容・方針を保護者や地域の人々に開いて、子供の問題状況についての認識を深めてもらい、子どもの教育についてそれぞれの役割や協力すべきことを明らかにし、よりよい教育を目指す必要がある。

中央教育審議会は学校・家庭・地域社会の役割と連携について述べ、以下のように学校運営の基本的な視点として「開かれた学校」を提言している。

web community aiming at 'Opened School'

I. Takahashi

Ochanomizu University

社会に対して「開かれた学校」となり、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、家庭や地域社会とともに子供たちを育てていくという視点に立った学校運営を心がける。

また保護者や地域住民等は、各学校の教育課程や指導の状況等に関心を持ち、学校の取組に積極的にかかわることが求められるとも提言している。^[2]

2.2 学校の何を開くのか

学校、家庭、地域社会が一体となった教育を進めるためには、学校がどのような教育をしようとしているのかを共通理解する必要がある。よって学校の教育課程を開くことは不可欠である。また学校の教育活動を実際に見てもらったり、教育活動の様子を発信していくことも重要である。さらに、目標や方針の立てっぱなしに終わるのではなく、その経過や結果の状況についても開いていかなければならない。また、学校の施設や設備を開くことも求められる。

2.3 学校を誰に開くのか

生徒をよりよく理解するために、学級の枠をはずし教師間で情報を共有する、つまり学校を教師に開くことが重要である。また学校は生徒たちのためにあるのであるから、当然ながら子供たちに開かれていることが必要である。そして、学校は家庭や地域社会と一体となって教育活動を進めるのであるから、保護者や地域の人々に開かれていることが求められる。

2.4 学校をどのように開くのか

開かれた学校では、情報を一方的に発信するのではなく、保護者や地域の人々も情報を発信するという双方向性が必要である。

よって、本研究では、学校の教育活動の様子をホームページで発信し、また、保護者、地域の人々も教育活動に参加してもらい、意見の交換や授業補助等、積極的に学校活動へ参加できるシステムを提案する。

2.5 学校を閉じることはないのか

開かれた学校づくりは期待されているが、一方で、その過程において危機管理を徹底しなくてはならない。安心して安全に学校を開くことができるようにするためには、その努力が必要である。個人情報の守秘と安全管理、安全確保が不可欠である。

3. システムの提案

3.1 Web コミュニティ「みんなの広場」の提案

ホームページ「みんなの広場」を開設する。教師、生徒、保護者、地域の方々が個別にWebブラウザを介してホームページにアクセスし、リアルタイムで学校の情報を閲覧することができる。以下、「みんなの広場」で閲覧することができる内容をあげる。

なお、本研究では生徒を中学生、地域の方々の代表として大学生のボランティアを対象としている。

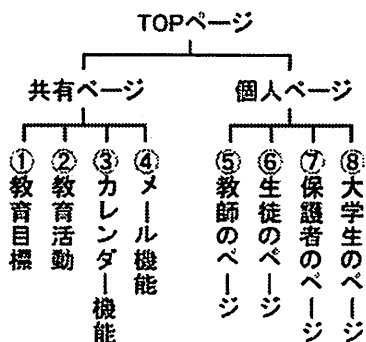


図 1. みんなの広場の構成

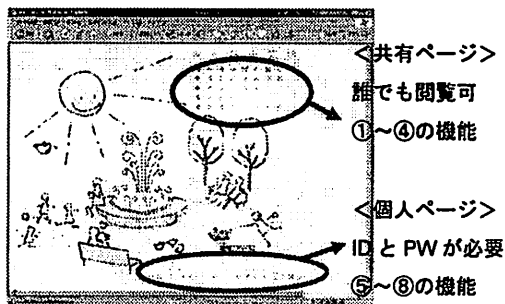


図 2. みんなの広場 TOP ページ

- ①教育目標 … 教育目標の掲示
- ②教育活動 … 教育活動の報告
- ③カレンダー機能 … 学校行事や月の予定等の配信
- ④メール機能 … 管理人に対するメール送信
本研究では、管理人を教頭と情報の教員とする

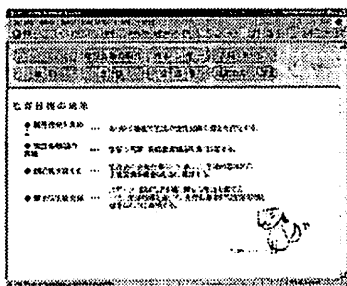


図 3. 教育活動の掲載ページ例

- ⑤教師のページ
 - ⑥生徒(中学生)のページ
 - ⑦保護者のページ
 - ⑧地域の人々(大学生)のページ
- } 詳細は 3.2 へ

教師、生徒、保護者、地域の人々(大学生)が閲覧できる個人ページについては個人 ID を設け、閲覧できる人を限定する。その内容については、3.2 で詳しく述べる。

3.2 各ページの構成

本研究では、教師が保有している生徒の個人情報と教師間で共有し、また生徒や保護者

も生徒個人の情報に関して閲覧、書き込みできるシステムを設計する。「生徒の生活の様子はどんなか？生徒は何を思っているのか？家庭の意見は？」等の情報共有を目指す。また、学校から情報を一方的に伝えるのではなく、保護者が学級担任のアカウンタビリティに対する評価を、アンケート形式で回答し、結果を自動的に集計するシステムも提案する。そして、先行研究^{[3][4][5]}の結果を取り入れて統合し、共通のインタフェースを持つシステムにまとめた。先行研究を取り入れることで、より教師の負担が軽減され、また、教師・生徒・保護者・地域の人々が協力し合うことができ、さらに開かれた学校となると考える。以下、先行研究^{[3][4][5]}について簡単に説明する。

(1) 遠隔ティーム・ティーチングによる教師支援システム^[3]

…コンピュータ通信を利用して学校間、あるいは学級間で情報交換しながら、共同で学習活動を進めていくシステム、指導案共同作成機能や授業後検討機能等をもつ。

(2) 中学校情報教育における習熟度評価^[4]

…オンライン小テストを実施することで、教師による生徒の評価を支援するシステム、評価の自動生成や、オンライン教務手帳機能等をもつ。

(3) グループウェアを核とした CSCL の試み「お茶ひろば」^[5]

…ボランティアの大学生が、オンライン上で生徒の学習支援をサポートできるシステム、共有ホワイトボードやチャット機能等をもつ。

3.2.1 教師のページ

教師全員が同一データを共有し、生徒、保護者に関するデータ全てを管理することができる。ただし、管理者ページ(d.)は管理者のみ閲覧できる。

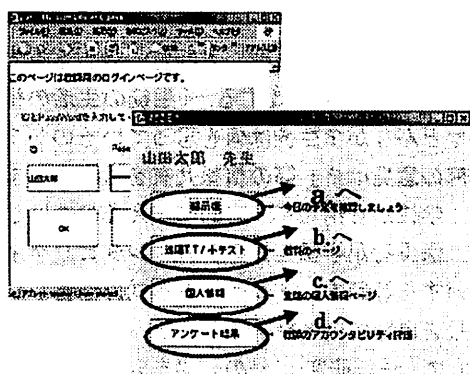


図 4. 教師用ログイン画面とメニュー画面

a. 掲示板

… 教師間で連絡事項を把握する

b. 教科のページ

- ・指導案のページ^[3]
- ・オンライン小テストのページ^[4]

c. 生徒の個人情報のページ

- ・成績のページ
- … テストの成績の管理, 閲覧
- ・対生徒のページ
- … 生徒との連絡ノート

生徒の活動日記の閲覧, コメント記入機能

・対保護者のページ

- … 保護者との連絡ノート
- 保護者との連絡帳の役割, コメント閲覧, 記入

d. 管理者ページ

- ・保護者からのアンケート結果の閲覧
- … ホームページ管理人のみが閲覧できる。アンケート結果を各教師のみにフィードバックし, 各教師の生徒, 保護者への対応改善等に役立てる。

3.2.2 生徒のページ

自分自身の情報のみ閲覧, 記入することができる。生徒自身以外に教師, 保護者も閲覧することができる。

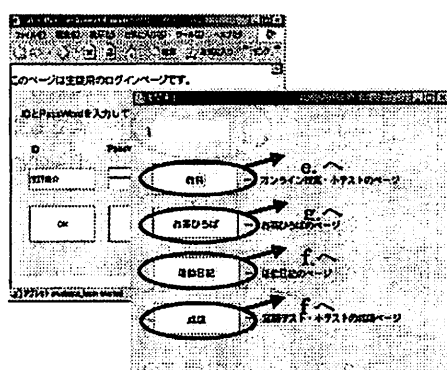


図 5. 生徒用ログイン画面とメニュー画面

e. 教科のページ

- ・授業のページ^[3]

・オンライン小テストのページ^[4]

f. 個人情報のページ

- ・成績のページ
- … テストの成績の閲覧
- ・活動日記
- … 学校での活動報告のページ

g. お茶ひろば^[5]

- ・チャット, ホワイトボード
- … 対大学生

授業中にわからなかった範囲を, 放課後, チャットとホワイトボードを使い大学生に質問することができる。

3.2.3 保護者のページ

自分の子供の情報のみ閲覧, 記入することができる。教師評価のページ (i.) は匿名性を考慮し, 管理者以外の教師は直接閲覧できないようになっている。本研究における管理者とは, 学校の教頭を想定している。

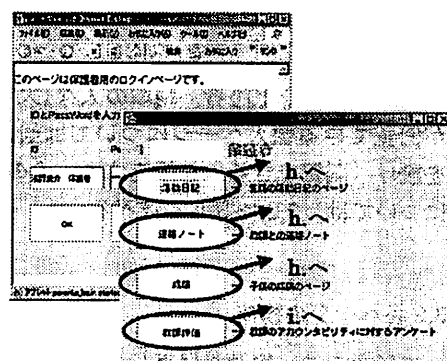


図 6. 保護者用ログイン画面とメニュー画面

h. 個人情報のページ

- ・生徒の成績のページ
… テストの成績の閲覧
- ・生徒の活動日記
… 生徒の活動日記の閲覧
- ・対教師のページ
… 教師との連絡ノート

教師に伝えたいことや質問したい内容を入力する。教師からの返答を閲覧することができる。

i. 教師評価のページ

教師に対する評価のページである。定期的に、教師のアカウントビリティに対する評価をすることができる。アンケート形式で保護者の意見に近いものを選択肢の中から選んで回答する。結果は自動評価され管理人に送信され、管理人のみ結果を閲覧することができるので、自由に意見を述べることができ、結果は教師ごとにフィードバックされる。

3.2.4 地域の人々(大学生)のページ

ボランティアの大学生が参加する。

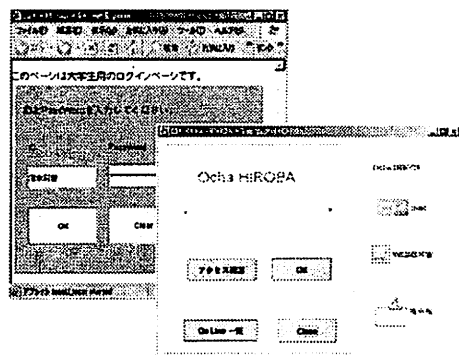


図 7.大学生用ログイン画面とお茶広場の画面

j. お茶ひろば^[5]

- ・チャット、ホワイトボード
… 対生徒

中学生から質問された学習内容について、チャットとホワイトボードを使って学習支援を行う。

3.2.5 教師評価の管理者のページ

保護者から送信された、教師のアカウントビリティに対する評価を一括して閲覧することができる。教師のプライバシーを保護するためにも、管理者は学校内で教師を管理している教頭と想定した。

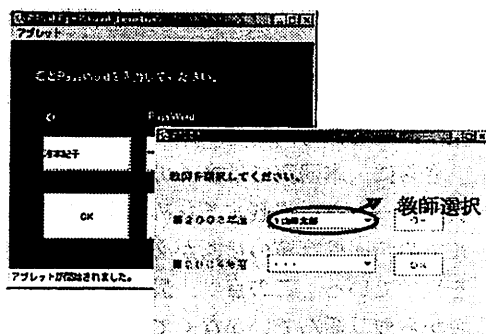


図 8.管理者用ログイン画面とトップページ

k. 教師のアカウントビリティに対する評価の閲覧ページ

…ログイン後、年度と教師名を選択し、教師評価のページを閲覧する事ができる。

4. システム実装

今回構築したシステムは、サーバーには Windows 2000 Server と Solaris9 を使用し、Web サーバーには IIS 5.0 と Apache2.0、サーブレットエンジンには Tomcat4.1、RDBMS には SQL Server 2000 を使用した。クライアント側は Windows 2000 の Internet Explorer 6 と Netscape 7 で動作確認をした。

システム作成には Java 言語を採用し、研究開発には JBuilder 9 を使用した。

5. システム評価と考察

本システムをローカルな環境で稼働させ、コンピュータに対する経験度が比較的高い数名の中・高教員に試用してもらい評価を行った。生徒に関する情報が、「みんなの広場」に集約されていることで、情報管理がしやすく、教師の作業効率の向上に繋がるという評価を得た。一方で、オンライン小テストや教師の

アカウンタビリティに対する評価で自動生成される所見例の内容についてコメントの種類を増やす等の改善が求められている。

保護者に関しては、自分の意見を発言する場ができ、学校活動に参加しているという意識が高まるであろうという意見も得られた。

しかし、今回はコンピュータに関して経験度が高い教員に試用してもらったため、今後は経験度が高くない教員や保護者に対する対策が必要である。

さらに、本研究では多くの個人情報インターネット上に掲載するため、より高いレベルでの情報保護策の検討が必要だという指摘を受けている。この点は、最重要課題として今から取り組んでいかななくてはならないと考える。

また、現段階では地域の一員として大学生のボランティアに学校活動に参加してもらっているが、将来的には、地域の住民の経験談等を Web に掲載したりし、より地域に開かれた学校となるよう充実した Web にしたいと考えている。

6. おわりに

これからの学校は、問題解決の取り組みを積極的に展開し、学校が家庭や地域社会にとって垣根の低い開かれたものとなるように努める必要がある。今までは学校から一方的に情報が発信されるだけであったが、本研究で実践した教師のアカウンタビリティに対する保護者の評価を教師にフィードバックすることで、より良い学校活動へと導くことができると考える。

今後も引き続き、協力していただいている中学校と連動しながら、教師のアカウンタビリティに対するアンケート内容、オンライン小テストや指導案の内容を検討し、試験を重ねた上でシステムを改善させていきたい。そして、より多くの人がホームページを閲覧し、教育活動に参加できるように、見やすく親しみやすいインタフェースに改良していきたい。

参考文献

- [1] 鳴門教育大学：「学校改善」
<http://www.naruto-u.ac.jp/>
- [2] 中央教育審議会：保護者や地域住民との連携・協力について(答申)，2003
- [3] 社本 恵美子：遠隔ティーム・ティーチングにおける教育支援システム，2000
- [4] 吉田 美穂子：中学校情報教育における習熟度評価，2002
- [5] 清水 彩世：グループウェアを核としたCSCLの試み，2002
- [6] 武藤 隆，澤本 和子，寺崎 千秋 編著：21世紀を生き抜く学級担任，ぎょうせい，2002